

**01** ネット時代の成功例に学べ!

**スキップされない、無視されない注目のCM動画**

▶ YouTubeで動画の前や途中に挿入されるCMはスキップされることが多い。そこでユーザーの関心を引く動画が作られている。

▶ 大手製菓会社がアラブ首長国連邦でCM動画を50本作成した。内容は、YouTubeの協力で特定した最も検索された50のトピックについて。それを関連するコンテンツの前や途中で流した。例えば、化粧品関連の動画の前にメイクについて語っている動画が再生される。時間は苦にならない長さの6秒にした。インプレッション数は987万、ユニークユーザー数は455万人に達した。

▶ アメリカのECサービスの会社はコント仕立てのCMを制作した。

その一つ、スーツ姿の男性が縄跳びをする動画では「スキップ、スキップ…」と言いながら縄跳びを繰り返す。やがて男性は「まだするの?」と苛立ち、スタッフともめ始めて、カメラの前から消えてしまう。スタッフが後を追って、少々話し合うものの折り合いが悪い。そして、男性はカメラを止めてしまう。画面にはカラーバーが表示されて終了。

スキップしようとするインパクトのあることが起きるので、視聴者は思わず最後まで見てしまうのであった。

**02** 繁栄企業の成功要因を探る

**捨てるのがもったいない役に立つパッケージ**

▶ コロナ禍で多くの方がデリバリーサービスを利用している。そんな状況でも楽しんでもらおうとアメリカの宅配ピザチェーンが、世界中で愛されたゲームをプレーできるパッケージでピザを配達した。

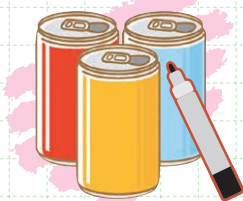
ピザボックス側面についているQRコードをスマートフォンで読み取ると専用サイトにアクセスできる。カメラでピザボックスの上面を写すと、ディスプレイの中にゲームのステージが3Dとなって浮かび上がってゲームスタート。

さらに、スコアにハッシュタグを付けてTwitterに投稿すると、オリジナルデザインのゲーム機などが当たるキャンペーンも開催された。

▶ 2021年1月、イギリスで清涼飲料水メーカーが、新年の抱負や目標を書き込む限定デザイン缶を発売した。

購入は特設サイトからでき、「〇〇は得意ではないけれど、頑張ってみる」「〇〇を当たり前だと思わない」などの定型文を選択して、〇〇の部分に目標を入力する。中身のジュースは通常のもの、カロリーゼロなど3種類から選べる。

長引くコロナ禍の中、決意を新たに努力する人を応援する企画として人気になった。



**Check!** 進化するプロモーション手法に必要な基礎知識  
**要チェック!**

▶▶▶ **利用者の生の声を活用する**  
**ユーザー生成コンテンツマーケティング** (後編)

ユーザーによる自発的なネットへの書き込みや画像、動画はUGC (User Generated Contents ユーザー生成コンテンツ) と呼ばれ、その信用度の高さから多くの企業がマーケティングに活用している。

● UGCで購買意欲を喚起

● 顧客の実感を伝える

ランディングページやECサイトなどユーザーの目に触れるものにUGCを掲載することは、購買意欲の喚起につながりやすい。

健康食品の通販事業に進出した日本のオーラルケア用品会社が、主力商品である青汁のモニター募集ページや定期購入の手続きページに、ユーザーによるInstagramの投稿を掲載した。これで飲んだ実感が閲覧者に伝わり、コンバージョン率は約1.3倍に達した。

● 店舗でディスプレイ表示

アメリカのドーナツチェーンは店舗の壁にディスプレイを設置して、ブランドに関する最新のSNS投稿を映し出した。美味しそうなドーナツの写真を見て、いつもより多く買ってしまったり、購入後に真似して投稿する人もいて、3,600万以上のインプレッションと3,000以上の投稿を集めた。

スニーカーブランドでも直営店にディスプレイを設置し、店にある商品に関するSNSの投稿を見られるようにした。来店客が自分でコンテンツを選択できるように、タッチスクリーンも用意している。商品の説明とレビュー、商品によっては使用時の画像や動画もあって、来店客の購入に役立っている。

● UGCを利用する際の注意点

UGCは初めから企業に利用される目的でつくられたものではない。そのため利用する際は注意が必要になる。

● 事前に内容の確認を

ユーザーは商品やサービスに精通していないので、正確な情報が含まれている恐れがある。それが拡散されると、企業にとってマイナスになる。UGCを利用する際は常に内容確認が必要である。

● 権利侵害にも注意を

一般消費者は肖像権や著作権を気にしないことが多く、画像や動画に他人や著作物が映り込む場合がある。そのUGCを企業が利用するとトラブルが発生する危険もあるので、権利関係は十分に配慮しなければならない。

多くの企業が利用しているUGC。その信用度の高さから今後さらに利用が増えるだろう。